

中心問題：ティーン（13-18）がオーバードーズをすること。

オーバードーズ：医薬品を決められた量を超えて過剰に服用すること。

✔ この問題に着目した理由

初めに、トー横キッズ（東京都新宿区歌舞伎町の新宿東宝ビル周辺に集まる居場所やコミュニティに来る若者たちを指す通称）に着目しました。話し合いの中で、集まること自体が問題なのではなく、トー横に来る若者がオーバードーズや売春を行うケースがあることが問題であると挙げられ、今回はオーバードーズに着目しました。

✔ 関係者分析

受益者の中で、圧倒的にオーバードーズをする若者はティーンの子が多いことから、ターゲットをティーン女子に決定しました。

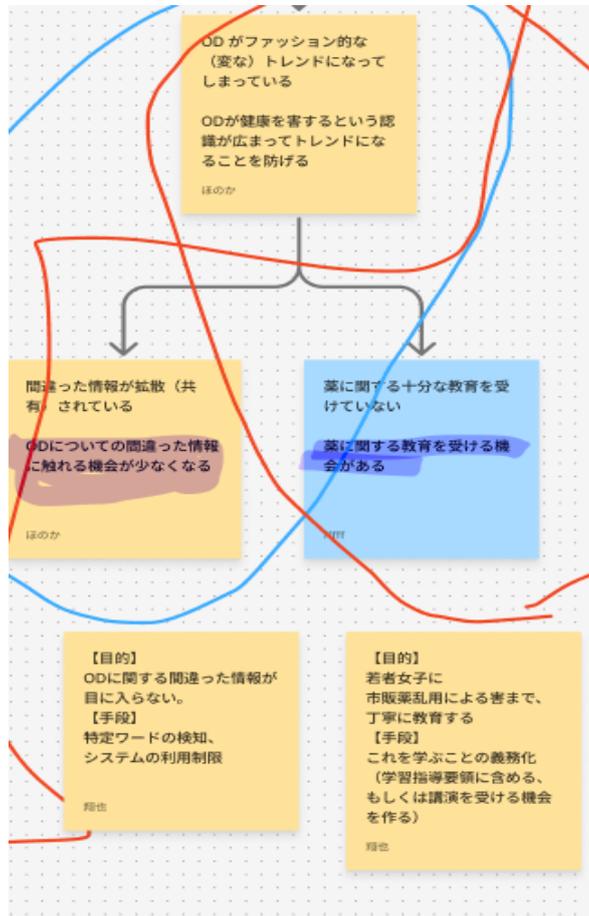
✔ 問題分析

大きな問題として次の2点が挙げられました。

1. オーバードーズに対するハードルが低い
2. オーバードーズから抜け出せない

問題分析の中では、「ティーンの中でオーバードーズすることがファッション（間違ったトレンド）になっている」という意見が出ました。この意見に対して、理解ができないという声もあり丁寧に議論を重ねました。その結果、薬が身体に与える影響を正しく理解できていないこと、間違った情報が拡散されていることが問題であると明らかになりました。

(一部のイメージ)



✓ 目的分析

問題分析を経て、まず必要なのは「薬に関する教育を受ける機会があること」であると明らかになりました。

✓ プロジェクト

ティーン女子へのオーバードーズ教育

目的：

- 1, 将来のティーン女子からオーバードーズの選択肢をなくすこと
- 2, オーバードーズ開始前の段階で予防支援を選択できるようにすること

✓ 内容と理由

- **内容**: 文部科学省が学校教育に、薬についての危険性や正しい知識についての教育を組み込む。そのうえで、学校で教師から生徒へオーバードーズへの危険性を教える。
- **理由**: ティーンが最も何かを学ぶ場所は学校であるため、学校に場所設定しました。

✓ 小西先生からのフィードバック

多忙な教員が新たに薬について学び、生徒に教えるという仕組みは、現場の負担から見て非現実的である」との指摘をいただきました。「教育＝教師から」という固定観念に捉われていたことに気づかされ、今後は外部専門家の活用や SNS を通じた啓発など、多面的に学ぶ機会を検討する必要があると考えています。

✓ 学んだこと

● オーバードーズの問題を分析して学んだこと

一つの問題を表面的に見るのではなく、その背景や構造を丁寧に分析することの重要性を学んだ。最初は「トー横キッズ」そのものに問題があるのではないかと着目していたが、丁寧に分析していく中で、本質的な問題は若者がオーバードーズに至ってしまう環境や情報不足に本質的な課題があることに気づいた。さらに問題を解決するためには理想だけでなく、実現可能性も考慮する必要性があることも学んだ。

● グループ活動を通して学んだこと

・短いミーティング時間をフル活用できるように、各々タスクを済ませてくることの大切さを学びました。

・意見や質問で話を中断させてはいけないと考えていましたが、毎回納得できるまでみんなで議論したことで、より自分事として PCM 分析に入り込めたと思います。議論の過程で発見・間違いに気づけたこともありグループワークの重要性を学びました。

・改善点として、知識を得るだけで終わらせず、事前に共有して目を通しておくことを次回につなげたい。